

判例第 59/2023/AL 号¹

「殺人」事件における間接的故意過失について

2023 年 2 月 1、2、3 日に最高人民裁判所裁判官評議会により可決され、最高人民裁判所の長官の 2023 年 2 月 24 日付決定第 39/QĐ-CA 号に従い公表された。

判例の源：

被告人チェウ・ヴァン・M、ダン・ヴァン・T に対する「殺人」事件についての 2020 年 12 月 10 日付けのイエンバイ省人民裁判所の控訴審判決、番号 50/2020/HS-PT

判例の内容の位置：

「裁判所の認定」という部分の第 3、4 及び 5 段落

判例の内容の概要：

-判例の事実：

被告人は危険な武器を使用して被害者を攻撃した。被害者はバイクを運転して逃げたが、被告人は追いかけて続けたため、被害者はスピードを上げて逃げなければならないのではないかと恐れた。被害者が事故にあったので、被告人は追跡をやめた。被害者は救急病院に向かう途中で死亡した。

-法的解決策：

この場合、被告人は間接故意過失を伴う「殺人」の罪について刑事責任を負わなければならない。

判例に関連する法令の規程：

2017 年に修正・補充された 2015 年刑法第 123 条

判例のキーワード：

“殺人”、“間接的故意過失”、“バイクを運転して逃げる”、“事故にあった被害者”

事件の内容

¹ (原文注) この判例は、イエンバイ省人民裁判所によって提案された。

事件書類中の資料及び審理の推移によれば、事件の内容は次のように要約できる。

2019年9月6日の夜、チエウ・ヴァン・Mとダン・ヴァン・Tは、イエンバイ省Y県T地区のK村での結婚式に出席した。結婚式で、Mはグエン・ゴック・Vとグエン・ティ・Lに会った。彼らは2004年生まれで、イエンバイ省B県N地区のT村に住んでいた。以前、MがC地区に出かけたとき、そこで若者に殴られたので、VがC地区の出身であるのがわかって、MはTに「T兄貴、一緒にVを殴りましょう」と言った。以前、TがVに会ったとき、Vに酒を勧めたのにVが飲まなかったので、TはVに見下されていると思っていたため、Tは同意して「戻ってきたら教えてください」と言った。同日20時頃、グエン・ゴックVはバイクに乗り、村の間の道路を進んでグエン・ティLを送った。TとMも、Vを殴るためにそれぞれバイクを運転してついていった。TがMに「何か持っていますか?」と尋ね、Mは「はい」と答えた。MもTに「何か持っていますか?」と尋ね、Tは「はい」と答えた。MとTは500メートルほど追いかけた後、Vのバイクを追い越し、イエンバイ省Y県T地区D村の空き道に出た。MとTはVのバイクを止めてき自分たちのバイク求めて、Tはバイクのトランクを開けてバッグの中に入っていた棒（金属製で3つの部分からなる、黒いハンドル付き、3つの部分を伸ばすときの最大の長さは64cm、収納時は24cm、直径は2.5cm、丸い先端は直径1.5cm）を取り出した。VとLがバイクを降りたとき、Mは「なんでそんなに早く帰るの」と言い、Tは「昨日お酒をすすめたのに、飲まなかった。私を軽蔑しているのか?」と言い、Vは「昨夜、何人かの男に私は殴られた」、Vがそう言った後に、MはVの顔を手で殴り、MはVの体の上に座って手でVの顔を殴り、飛び込んでいったTもVの足を2回蹴った。このとき、Vが立ち上がってMの顔を殴ったので、MはVの体を締めつけて道路脇に押し込み、Tは棒を取り出して、Vの左腕の上腕部を殴った。その時、Mは携行していた棒（柄が黒い金属製の3つの部分からなる、3つを伸ばしたときの最大長は31cm、直径1.0cm）を取り出してVの胸に殴り、加えてMは左から右、上から下にVの顔を殴り、さらに3回殴りつけて、棒を落とした。殴られたVは結婚式に戻る方向の道に逃げようとし、Mはそれを追いかけてVのシャツをつかんだが、VはなんとかMから逃れた。TはVに駆け寄り、鉄の棒を使ってVの背中をもう一度叩いたので、Vは逃げた。TとMはバイク置き場に戻り、エンジンをかけてライトをつけてVを探し続けた。この時、LもVを探しに行ったところ、殴られた場所から約100m離れた道路脇にVが横たわっているのを見つけた。VはLに「疲れた、へとへとだ」と言った。TとMのバイクのライトが通り過ぎるのを見ると、Vは立ち上がり、Lに助けられながら道を上って自分のバイクに向かって歩いた。その後、TとMが振り返ると、VがLに乗せたバイクを約2メートル発進させたのを見つけたので、TとMはアクセルをふかして追いかけて、それを見たVもスピードアップし

て逃げた。追いかける時、Tは鉄の棒を持ったままで、Mは「お前たちの母は**²、止まれ」と叫んだ。100mほど追いかけたところでTがバイクから落ちたので、Mは一人で追いかけて続けた。Lは、下り坂に差し掛かってもVが高速で運転しているのを見て、Vの肩を軽くたたき、「スピードを落としてください」と言ったが、Vは何も言わず、スピードを落とさなかった。Y県T地区第4村の交差点（TとMが殴った場所から1,300メートル）に来たとき、Vはどうすることもできないままファム・ヴァンHの家の庭に突っ込んで、バイクから転落した。それを見たMは来た道に戻ってバイクを運転していたTに会って「Vがバイクから落ちた」と言い、2人とも帰宅した。グエン・ゴック・Vは緊急病院に運ばれたが、間もなく死亡した。

イエンバイ省司法医学センターの2019年9月13日付の死体に関する司法医学鑑定第79/TT号は、次のように結論付けた。

-グエン・ゴック・Vの死因: 右側頭部の頭蓋骨の複雑骨折

-外傷形成のメカニズム: 右側頭部の頭蓋骨折は、断面の大きな物体が直角方向に強い衝撃を与えることでは生じる

-イエンバイ省法医学センターの2019年10月14日付の傷跡に関する司法医学鑑定、番号: 112/TgTは、次のように結論付けた。

-右側頂頭部の擦り傷: 1%; 右目の角の周りの皮膚の打撲 1%; 小鼻の皮膚 + 右頬領域の擦り傷: 1%; 胸鎖関節の下の胸の中央の皮膚の擦り傷: 1%。乳首の下の右胸の皮膚の打撲: 0%; 右肘の皮膚打撲: 1%; 右手の甲の皮膚の擦り傷: 0%; 太もも、膝、右足の甲の皮膚の擦り傷は 0%。

-写真鑑定によるグエン・ゴック・Vの負傷率は 5%

現場検証の結果、グエン・ゴック・Vとグエン・ティ・Lが転落した交差点付近は、3m50幅の仕切りのない2方向の分岐のある道路であり、路面には擦った痕跡があった。ファムヴァン・Hの庭(道路に隣接)に擦った痕跡があり、0,53x0,34mの大きさの木の切り株を覆う布の上に不明確な形状(0,3x0,2m)の血痕があった。

第一審の段階で、被告人のダン・ヴァン・Tとチエウ・ヴァン・Mの家族は、被害者グエン・ゴック・Vの家族に自主的に補償金 80,000,000VNĐ を支払った。

² (仮和訳者注) 原文が伏字になっている。侮蔑的な表現と推測される。

2020年9月16日付けのイエンバイ省チャン・イエン県人民裁判所の第一審刑事判決、番号22/2020/HS-STでは、次のように決定した。

1. 罪名について: 被告人ダン・ヴァン T と被告人チエウ・ヴァン・M を「故意に他人に傷害を引き起こす罪」で有罪と宣言する。

2. 刑罰について: 刑法第134条第4項 a 号、第51条1項 b 号、s 号、第52条第1項 d 点を適用する。被告人ダン・ヴァン T を懲役14年に処する。刑期は、2019年11月8日の拘留日から起算する。被告人チエウ・ヴァン M に懲役14年に処する。刑期は、2019年11月8日の拘留日から起算する。

3. 民事責任について: 民法第584条、第585条、第589条、第590条、第591条、第357条、第468条2項を適用し、被告人チエウ・ヴァン・M と被告人ダン・ヴァン・T は連帯してグエン・ヴァン・T1 と チエウ・ティ・L1 に 6,340,000 VNĐ の賠償金を支払わなければならない。被告人 T の負担部分は 3,170,000 VNĐ であり、被告人 M の負担部分は 3,170,000 VNĐ である。

さらに、第一審の判決は、グエン・ティ・L に対する被告人の民事責任、物的証拠の取り扱い、裁判費用、及被告人に上の控訴の権利についても決定した。同時に、イエンバイ省人民裁判所は書面で建議を行い、高級人民裁判所長官がイエンバイ省チャン・イエン県人民裁判所の2020年9月16日付の第一審刑事判決 No. 22/2020/HS-ST を取り消すように異議申し立てをして、刑法第123条が規定する殺人罪で捜査、起訴、審理するように提案した。

- 2020年9月19日、被害者グエン・ゴック・V の合法的代理人であるグエン・ヴァン・T1、チエウ・ティ・L1 人は、罪名に不同意で、賠償金を増額するとして控訴した。

- 2020年10月1日、被告人ダン・ヴァン・T と被告人チエウ・ヴァン・M は、減刑を求めて控訴した。

- 2020年9月29日付けのイエンバイ省チャン・イエン県人民検察院長官の控訴審意義申し立て決定、番号02/QD-VKSTY において、被告人ダン・ヴァン T の刑の減軽が提案された。

控訴審で、被告人ダン・ヴァン・T と被告人チエウ・ヴァン・M は、すべての行為が第一審の判決の認定のとおり行われたことを認めた。両被告人は、刑罰を軽減する控訴を維持し、賠償金増額を受け入れなかった。

被告人の弁護人は、第一審裁判所が被告人を審理した罪名と条項に同意するが、両被告人に対する判決は重すぎると考えた。両被告人には多くの酌むべき状況があったため、控訴審裁判所に刑罰を減軽するよう提案した。

被害者の合法的権利・利益の保護人は、第一審裁判所が両被告人を審理した罪名に同意しないことを表明して、刑法第 193 条³1 項 n 号に基づく「殺人」の罪につき両被告人を審理して終身刑とすることを控訴審に提案し、両被告人は被害者の合法的代理人に合計 421,000,000 VNĐ の賠償を支払わなければならないとすることを提案し、両被告人の家族が 80,000,000 VNĐ を賠償済みであることを確認した。

検察官は、以下の見解を示した。被告人チエウ・ヴァン・M 及びダン・ヴァン・T に対して刑法第 134 条第 4 項 a 号に基づく「故意に他人に傷害を引き起こす罪」とした第一審の判決に根拠がある。しかし、両被告人の犯罪的役割を同一であるとする一審裁判所の評価は誤りである。なぜなら、被告人ダン・ヴァン・T は誘われて引き込まれたのであり、被告人チエウ・ヴァン・M よりも重要性の低い犯罪を行ったにすぎない。したがって、被告人 T の刑罰を減軽することを示唆するチャン・イェン県人民検察院長官の異議申し立ては、受け入れの根拠がある。被告人チエウ・ヴァン・M の刑罰の減軽を求める控訴と、被害者の合法的代理人の犯罪を変更、刑罰を重くする控訴は、受け入れる根拠がない。民事責任については、被害者の合法的代理人の控訴の一部を受け入れて、精神的損失に対する補償を 100,000,000 VNĐ に引き上げるが、第一審で解決されたその他の補償は、法令の規定に従っているため、維持する必要があることを提案する。刑事訴訟法第 355 条第 1 項 b 号、同第 357 条 1 項 b 号、同 2 項 b 号に基づき、チャン・イェン県人民検察院長官の異議申し立てと被告人ダン・ヴァン・T の控訴を承認し、被告人チエウ・ヴァン・M の控訴を承認せず、被害者の合法代理人の控訴の一部を承認して、被告人ダン・ヴァン・T の刑罰を減軽して、被害者の合法的代理人に対する精神的損害の賠償額を増額するという方向で、2020 年 9 月 16 日付のイェンバイ省チャン・イェン県人民裁判所の第一審刑事判決、番号 22/2020/HS-ST を修正することを提案する。

両被告人、弁護人、被害者の合法的権利・利益の保護人は、彼らの見解を維持すると主張した。最後の言葉を求められた際、両被告人は減刑を求めた。

裁判所の認定

³ (仮和訳者注) 「刑法第 193 条」は原文ママ。正しくは刑法第 123 条と思われる。

[1] 審理で争われた事件の内容、事件書類の資料に基づき、裁判合議体は次のように認定する。

[2] チャン・イェン県人民検察院長官の異議申し立て、両被告人および被害者の合法的代理人の控訴は、正しい形式で、法律で定められた期限内に行われ、控訴審で解決する条件を満たしている。

[3] 控訴審の審理における証言として、被告人ダン・ヴァン・T及びチエウ・ヴァン・Mの証言は相互に合致しており、グエン・ティ・Lの供述、鑑定結論、現場検証調書、物的証拠のような事件書類中の資料、証拠にも合致し、以下を確定するのに十分な根拠がある。2018年12月20日の午後8時頃、被告人ダン・ヴァン・T及びチエウ・ヴァン・Mは手と足でグエン・ゴック・Vを殴り、金属棒でもグエン・ゴック・Vの頭、顔、手、肋骨、背中を数回殴った。その後、TとMはVを殴るためにバイクで時速50km以上だしてVを追いかけ続けた。Tが鉄の棒を取り出し、Mが「お前たちの母は**⁴、止まれ」と叫んだ。それを見て、Vはアクセルをふかして逃げ、Y県T地区の第4村の交差点に到達したとき、速すぎて操作できず、Vのバイクは道路を横切って路上で転倒して、救急病院に行く途中で死亡した。

[4] 被告人TとMが危険な武器である金属の棒を使って、Vの頭、顔、体を何度も殴り、バイクでVを追いかける行為は非常に危険である。Vは殴打された状態で、依然として両被告人に追われ、脅迫され続け、殴られ続けるのではないかと恐れ、高速でバイクを運転して逃走した。集落間の道路は曲がりくねったところが多く、暗いところでは急勾配の区間も多く、死に至る危険な事故を引き起こす可能性がある。両被告人はそれを認識していたことに間違いがないが、Vがバイクから転倒したことを見るまで停止することなく、Vを1300m追跡し続けた。上記の危険な行為により、両被告人の犯罪行為が非常に苛烈であると判断するのに十分な根拠があり、両被告人は主観的に人を死に至らしめる結果が発生することを望んでいないが、そうなる認識があったことを証明しており、実際にVは死亡している。

[5] このように、被告人TおよびMが間接的な故意過失を伴う「殺人」の罪を犯したと結論付けるのに十分な理由がある。第一審における、両被告人に対する「故意に他人に傷害を引き起こす罪」の捜査、起訴、審理は正しくない。従って、刑事訴訟法第358条第1項a号の規定により、第一審の判決で宣告された罪よりも重大な犯罪を立件、捜査するために第一審判決を破棄する必要がある。

⁴ (仮和訳者注) 原文が伏字になっている。侮蔑的な表現と推測される。

[6] 第一審の審理中、チャン・イエン県人民裁判所は、両被告人の行動が「殺人」の罪を構成することを示す根拠があったため、補充捜査のために事件書類を差し戻した。しかし、しかし、チャン・イエン県人民検察院は、「故意に他人に傷害を引き起こす罪」で起訴する決定を維持したため、チャン・イエン地区人民裁判所は、その権限に従って審理したうえで、判決書での罪名に対する異議申し立てを建議した。したがって、控訴裁判所が第一審の判決を取り消したことにつき、第一審裁判所に落ち度はない。

[7] 再捜査のために第一審の判決が破棄されたため、この事件の捜査、起訴、再審理の過程で、罪名と民事責任に関する控訴と異議申し立てが検討され、解決された。

[8] 両被告人および被害者の合法的代理人は、控訴裁判費用を負担しない。

上述を踏まえて、

決定

刑事訴訟法第 355 条 1 項 c 号、同 2 項、及び同第 358 条 1 項 a 号に基づき

1. 2020 年 9 月 16 日付のイエンバイ省チャン・イエン県人民裁判所の第一審刑事判決、番号 22/2020/HS-ST を再捜査のために破棄する。

事件書類をイエンバイ省人民検察院に引き渡し、法律に従って解決する。

2. 裁判費用について： 2016 年 12 月 30 日付の国会常務委員会決議第 326/2016/UBTVQH14 号第 23 条 2 項 f 号に基づき、裁判費用の徴収、免除、減額、管理及び使用が規定される。被告人及び被害者の合法的代理人は、控訴裁判所の費用を負担しない。

控訴審刑事判決は、その宣告の日から効力を生じる。

判例の内容

“ [3] 控訴審の審理における証言として、被告人ダン・ヴァン・T 及びチエウ・ヴァン・M の証言は相互に合致しており、グエン・ティ・L の供述、鑑定の結果、現場検証調書、物的証拠のような事件書類中の資料、証拠にも合致し、以下を確定するのに十分な根拠がある。2018 年 12 月 20 日の午後 8 時頃、被告人ダン・ヴァン・T 及びチエウ・ヴァン・M は手と足でグエン・ゴック・V を殴り、金属棒でもグエン・ゴック・V の頭、顔、手、肋骨、背中を数回殴った。その後、T と M は V を殴るためにバイクで時速 50km 以上だして V を追いかけて続けた。T が鉄の棒を取り出し、M が「お前たちの母は**、止まれ」と叫んだ。それを見て、V はアク

セルをふかして逃げ、Y 県 T 地区の第 4 村の交差点に到達したとき、速すぎて操作できず、V のバイクは道路を横切って路上で転倒して、救急病院に行く途中で死亡した。

[4] 被告人 T と M が危険な武器である金属の棒を使って、V の頭、顔、体を何度も殴り、バイクで V を追いかける行為は非常に危険である。V は殴打された状態で、依然として両被告人に追われ、脅迫され続け、殴られ続けるのではないかと恐れ、高速でバイクを運転して逃走した。集落間の道路は曲がりくねったところが多く、暗いところでは急勾配の区間も多く、死に至る危険な事故を引き起こす可能性がある。両被告人はそれを認識していたことに間違いがないが、V がバイクから転倒したことを見るまで停止することなく、V を 1300m 追跡し続けた。上記の危険な行為により、両被告人の犯罪行為が非常に苛烈であると判断するのに十分な根拠があり、両被告人は主観的に致命的な結果が発生することを望んでいないが、そうなる認識があったことを証明しており、実際に V は死亡している。

[5] このように、被告人 T および M が間接的な故意過失を伴う「殺人」の罪を犯したと結論付けるのに十分な理由がある。第一審における、両被告人に対する「故意に他人に傷害を引き起こす罪」の捜査、起訴、審理は正しくない。従って、刑事訴訟法第 358 条第 1 項 a 号の規定により、第一審の判決で宣告された罪よりも重大な犯罪を立件、捜査するために第一審判決を破棄する必要がある。“